

報告第一弾 ● ALL-DIGITAL CES 2021 どうだったか!? イベントパワー



文:吉井 勇・本誌編集部、画面データ提供:テッド若山氏

昨年開催時にラスベガスコンベンションセンターに掲示していたCESのロゴ

「ALL-DIGITAL」と格好つけてはいるが、要はオンライン開催である。主催のCTA(全米民生技術協会)に、オンラインのプラットフォームについて聞いた。「ALL-DIGITAL CESのニーズを徹底的に分析した上で、堅牢なクラウドソリューションを持ち、大規模なグローバルデジタルイベントの実績があるマイクロソフトに信頼を置いた」という回答がメールであった。

CESは、デジタルイノベーションの提案が集まるヤミ鍋のように何が飛び出してくるか、という期待が渦巻く。今回のオンライン開催について、CES取材のベテランジャーナリストである麻倉怜士氏と西田宗千佳氏に寄

稿してもらった。同時に本誌企画オンラインCESツアーが徹底して追いかけたテーマの一つ、米放送規格ATSC3.0の動向について連載筆者のテッド若山氏のレポートも参考になる。

本誌が連載を始めた「フードテック革命」動向にインパクトを与えたのがCESだ。2019年に植物由来の肉で提供したImpossible Burgerが話題を集め、そのインパクトはファストフードや食品スーパーの商品として広がった。2021開催のオンライン会場では何があったのか。Food Tech Liveという関連イベントがオンラインで連携していた。そこで、フードテックをテーマにコンサルティングで実績のあ

るシグマクス社のメンバーに、弊誌主催のオンラインCESツアーで講演してもらった。人間の五感のうち「味覚」のデジタル化がまだまだ未踏だと思うからだ。

オンラインCES 2021で注目したいのが、マイクロソフトのクラウドAzureの機能を生かしたアメリカ手話(ASL)を含む最大16言語に自動翻訳したクローズドキャプション(字幕)を使用したことだ。写真の通り、日本語字幕とASL(米国内のみ)を表示できる。オンライン開催でなければ、これほどまでに早くできなかっただろう。日本のビジネスショー主催者には、ユニバーサルコミュニケーションの「黒船到来」と感じてもらいたい。



- ①アメリカ手話(ASL)も同時通訳。クリックで表示のONとOFF
- ②AIによる自動翻訳なので正しく認識していない場合もあるという断りも